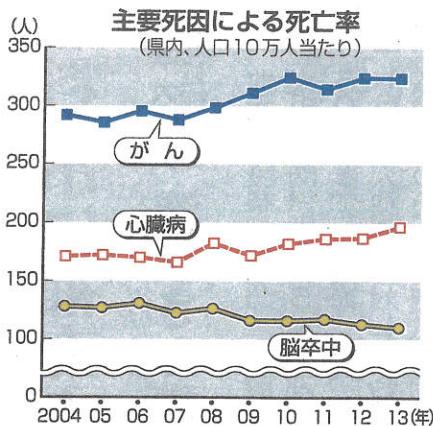


14日 がんフォーラム

病診連携が不可欠



2007年に施行されたがん対策基本法に示されているように、がん治療は、どの地域に住んでいても適切な治療が等しく受けられる医療提供体制を整備する必要がある。

日本人の平均寿命が延び、医療技術も日々進歩する中で、がん患者は増えている。限られた医療

徳島県内にある国指定がん診療連携拠点病院などで組織する県がん診療連携協議会・診療連携部会は14日、県民がんフォーラム「がんの診療連携と相談支援」を、徳島大蔵本キャンパスの大塚講堂で開く。がん治療は、先進医療の提供や術後の経過観察、在宅医療など切れ目のない医療提供体制の構築が欠かせない。部会長を務める徳島大学病院泌尿器科の金山博臣科長に、がん治療における医療連携の重要性について聞いた。(萬木竜一郎)

がん診療における医療連携の重要性について話す
金山科長・徳島大学病院

暮らし



金山・徳大病院科長に聞く

2007年に施行されたがん対策基本法に示されているように、がん治療は、どの地域に住んでいても適切な治療が等しく受けられる医療提供体制を整備する必要がある。

県内では、徳島大学病院が県がん診療連携拠点病院に、県立中央と徳島赤十字、徳島市民の3病院が地域がん診療連携拠点病院に指定されている。

例えば、普段は県立三



治療情報共有へ「患者手帳」作成

徳島大学病院が作成したがん患者用の「治療の記録ノート(患者手帳)」

好病院などの中核病院に通院しながら、手術や放射線療法、化学療法などの高度医療を受ける際は、地域がん診療連携拠点病院で治療。その後検査の内容や日常生活の注意点なども記載している。

県内では、がん患者と一緒に治療計画をまとめた「地域連携クリティカルパス(連携パス)」が浸透しつつあり、拠点病院と、かかりつけ医が患者情報を共有するシステムが構築され始めている。これに加え、徳島大学病院が中心となって数年前から取り組んでいるのが、がん診療の連絡帳ともいえる「治療の記録ノート(患者手帳)」だ。手帳は、連携パスを患者が理解できるよう分かれやすくしたもので、5大がん(肺、胃、大腸、肝臓、乳)に加え、子宮、前立腺、食道の各がんで作成した。患者との診療計画や治療記録、内服抗がん剤の種類のほか、術後検査の内容や日常生活の注意点なども記載している。

県民がんフォーラムは14日午後1時半から4時半まで。県がん診療連携協議会の福森知治会長が「がん診療に対する国および徳島県の取り組み」をテーマに話すほか、肺や胃、大腸など、さまざまながんに関する診療連携や予防法、最新の治療法などの講演がある。無料。問い合わせは徳島大学病院がん診療連携センター(電088(633)7312)。